

**有効成分ベンジルアデニン（別名ベンジルアミノプリン）を含有する申請農薬の
使用方法及び薬効・薬害試験結果概要**

1. ハンドセイブ液剤（ベンジルアデニン 1.9% 液剤）

(1) 使用方法

作物名	使用目的	希釀倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数
りんご	摘果	200~400倍	200~700L/10a	満開 10~20日後 (但し収穫90日前まで)	1回	立木全面散布	1回
りんご (苗木)	側芽発生促進	30~60倍	5~10mL/苗木	新梢伸長時	10回以内	新梢部へ散布	10回以内(但し立木全面散布は1回以内)
			100~400L/10a		1回	立木全面散布	

(2) 薬効

① りんご

薬効・薬害試験の結果、摘果に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表1-1：ハンドセイブ液剤の薬効・薬害試験（りんご、摘果）結果概要

作物名	試験場所実施年度	使用目的	試験条件					結果	
			希釀倍数 (倍)	使用液量 (L/10a)	使用時期	使用方法	使用回数 (回)	薬効	薬害
りんご (ふじ)	青森 R2	摘果	400	420	満開 15日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
			300	420					
			200	420					
りんご (ふじ)	岩手 R2	摘果	400	400	満開 17日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
			300	400					
			200	400					
りんご (ふじ)	秋田 R2	摘果	400	550	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
			300	550					
			200	550					
りんご (ふじ)	富山 R2	摘果	400	250	満開 17日後	立木 全面散布	1	200倍及び300倍は、無処理区と比較して効果が認められた。400倍は、無処理区と比較して効果は判然としなかった。	薬害は認められなかった。
			300	250					
			200	250					
りんご (ふじ)	長野 R2	摘果	400	十分量	満開 17日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果は判然としなかった。	薬害は認められなかった。
			300	十分量					
			200	十分量					

作物名	試験 場所 実施 年度	使用 目的	試験条件					結果	
			希釈 倍数 (倍)	使用 液量 (L/10a)	使用 時期	使用 方法	使用 回数 (回)	薬効	薬害
りんご (ふじ)	岩手 R4	摘果	400	333.5	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			300	333.5					
			200	333.5					
りんご (ふじ)	青森 R4	摘果	400	420	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			200	420					
りんご (ふじ)	秋田 R4	摘果	400	十分量	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			300	十分量					
			200	十分量					
りんご (ふじ)	富山 R4	摘果	400	250	満開 18日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			300	250					
			200	250					
りんご (王林)	青森 R4	摘果	400	480	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			200	480					
りんご (王林)	青森 R5	摘果	400	530	満開 13日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			200	530					
りんご (シナスイート)	青森 R4	摘果	400	270	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			200	270					
りんご (シナスイート)	長野 R4	摘果	400	700	満開 16日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			300	700					
			200	700					
りんご (シナスイート)	青森 R5	摘果	400	330	満開 14日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			200	330					
りんご (シナスイート)	長野 R5	摘果	400	500	満開 20日後	立木 全面散布	1	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			300	500					
			200	500					

②りんご（苗木）

薬効・薬害試験の結果、側芽発生促進に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-2：ハンドセイブ液剤の薬効・薬害試験（りんご（苗木）、側芽発生促進（新梢部へ散布））結果概要

作物名	試験場所 実施年度	使用目的	試験条件					結果	
			希釈倍数 (倍)	使用液量 (mL/苗木)	使用時期	使用方法	使用回数 (回)	薬効	薬害
りんご (苗木)	岩手 R3	側芽発生 促進	60	5~10	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			30	5~10					
りんご (苗木)	青森 R3	側芽発生 促進	60	5	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			30	5					
りんご (苗木)	秋田 R3	側芽発生 促進	60	5~10	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	無処理区と比較して 効果が認められた。	希釈倍数に関係なく 10回処理区で、 高温時に散布しその後も高温が続いたことが原因と考えられる新梢部黒変枯死の薬害が認められた。1回処理区で薬害は認められなかつた。
			30	5~10					
りんご (苗木)	岩手 R4	側芽発生 促進	60	5~10	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			30	5~10					
りんご (苗木)	青森 R4	側芽発生 促進	60	5	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	10回処理及び30倍 1回処理は、無処理区と比較して効果が認められた。60倍1回処理は、無処理区と比較して効果は判然としなかつた。	薬害は認められなかつた。
			30	5					
りんご (苗木)	秋田 R4	側芽発生 促進	60	5~10	新梢 伸長時	新梢部へ 散布	1又は 10	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
			30	5~10					

表 1-3 : ハンドセイブ液剤の薬効・薬害試験（りんご（苗木）、側芽発生促進（立木全面散布））結果概要

作物名	試験場所実施年度	使用目的	試験条件					結果	
			希釈倍数(倍)	使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	使用回数(回)	薬効	薬害
りんご (苗木)	岩手 R3	側芽発生 促進	60	100～400	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなか った。
			30	100～400					
りんご (苗木)	青森 R3	側芽発生 促進	60	167	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなか った。
			30	167					
りんご (苗木)	秋田 R3	側芽発生 促進	60	100～400	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなか った。
			30	100～400					
りんご (苗木)	岩手 R4	側芽発生 促進	60	100～400	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなか った。
			30	100～400					
りんご (苗木)	青森 R4	側芽発生 促進	60	167	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	30 倍処理区でごく 軽微な新梢伸長抑制 の薬害が認められ た。60 倍処理区で 薬害は認められなか った。
			30	167					
りんご (苗木)	秋田 R4	側芽発生 促進	60	100～400	新梢 伸長時	立木 全面散布	1	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなか った。
			30	100～400					

（2）薬害

表 1-1 から表 1-3 に示した薬効・薬害試験において、実用上問題となる薬害が 1 例認められた。

以上の結果から、りんご（苗木）の薬害を回避するため、使用上の注意事項を付す必要があると判断した。